

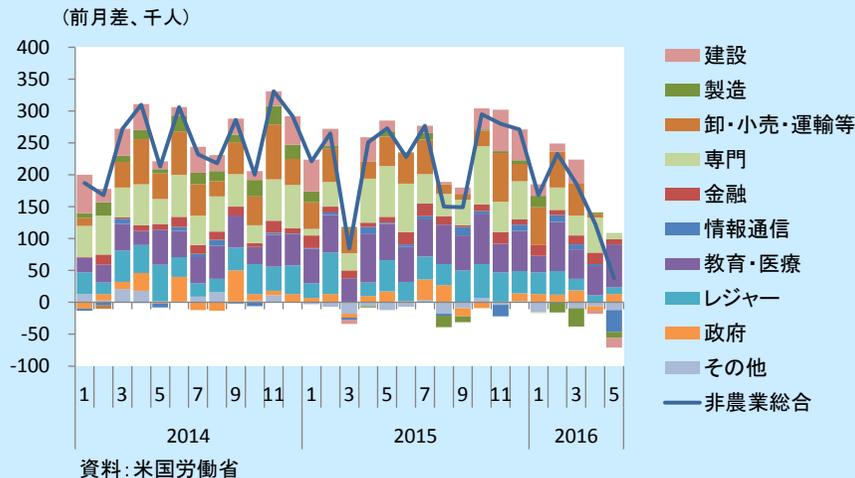
米国：雇用統計（2016年5月）

一雇用者数の増加ペースは大幅に低下

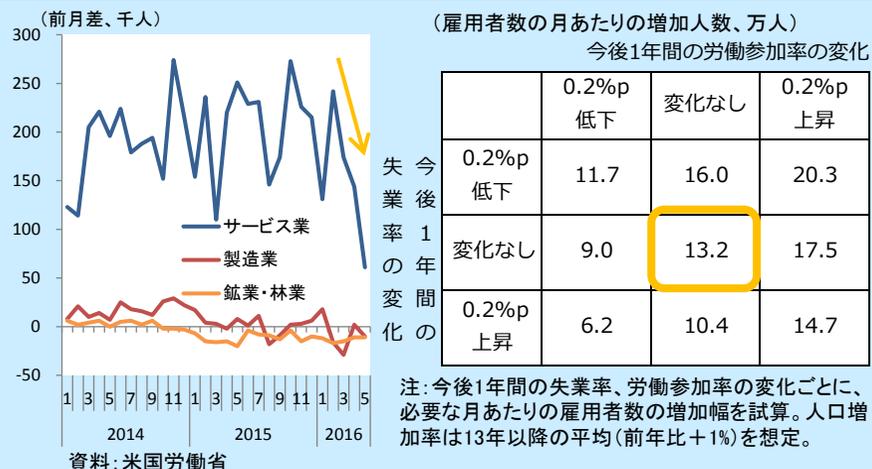
MRI Daily Economic Points

June 6, 2016

図表1 非農業部門雇用者数



図表2 サービス業の雇用者数 図表3 失業率悪化を防ぐ雇用者数の目安



評価ポイント

今回の結果

- 16年5月の非農業部門雇用者数は、前月差+3.8万人増と、2010年9月以来の小幅な増加となった。米通信大手ベライゾン・コミュニケーションズでのストライキにより雇用者数が3.5万人分押し下げられたほか、幅広い業種で雇用者数が減少または低い伸びにとどまった。
- 内訳をみると、教育・医療(同+6.7万人)で増加幅が拡大した一方、専門・ビジネスサービス(同+1.0万人)で伸びが低下。また、ストライキの影響を受けた情報通信(同▲3.4万人)は大幅に減少。シェール関連産業を含む鉱業・林業(同▲1.1万人)や建設(同▲1.5万人)で減少が続いたほか、輸出鈍化の影響を受ける製造業(同▲1.0万人)も2か月ぶりに減少した。
- 5月の失業率は4.7%と前月(5.0%)から低下。もっとも、労働参加率が前月から低下しており、失業者が職探しをあきらめ市場から退出したことが主因。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.4%と前月から伸びが小幅低下した。
※管理者を除く。

基調判断と今後の流れ

- 5月はストライキの影響を除いても、雇用者数は7.3万人増(=3.8+3.5万人)にとどまる。製造業や鉱業を除くサービス業の雇用者数の伸びも低下しており、雇用市場の改善ペースは鈍化している。
- 背景には、ドル高および海外経済の減速や、16年入り後の内需減速を受けて企業の採用姿勢が慎重化していることがある。失業率が長期均衡水準(4.8%前後)まで改善したことで雇用者数が伸びにくくなっている面もあるが、4~5月の雇用者数は失業率の悪化回避に必要な増加ペース(月13万人程度)を下回っている。
- 先行きも、企業の採用慎重化により、雇用市場の改善ペースは15年に比べて鈍化すると見込む。雇用の改善ペース鈍化によって消費者マインドが悪化した場合、米国経済を支えている消費の伸びが鈍り、雇用の改善ペースが一段と鈍化する可能性には注意が必要である。